

グリーンライフプロジェクト

プロジェクトメンバー ◎高橋草太 ○菅 寛貴（梅澤ゼミ 3 年）
小野元寛、常田恭右、小島拓弥、阿部智大（梅澤ゼミ 2 年）

1. 目的

本プロジェクトは、多摩市の特徴とも言える緑豊かな自然を活用し、「世代を超え、人と人を結びつける仕組みづくり」を行うこと、「幅広い世代の方に緑の大切さを伝える」ことを目的としている。

2. 活動内容

(1) 昨年度までの活動内容

昨年度までのグリーンライフプロジェクト(旧近隣交流ベルブ永山グリーン・プロジェクト)は、「永山公民館の屋上でハーブや花を育てることで、現在手付かずとなっている屋上を活性化させ、ベルブ永山を自然溢れる市民の交流の場にする」とを目的として活動していた。

我々は永山公民館と連携して、永山公民館 3 階のテラススペースで花やハーブの菜園を行っていた。またその花を地域のイベントでの飾りつけで活用した。その際には活動の宣伝や公民館との繋がりなどをイベントの参加者に広く活動を知って頂けるよう努めた。

しかし、公民館のテラスは日常的には立ち入る事が出来ないスペースであるため、我々が育てた花やハーブを当初の計画通りに地域の人々の交流の輪を広げていく事には至らなかった。

(2) 今年度からの活動内容

今年度は方向転換をし、“地域を知る”ことをテーマとして掲げた。地域の行事や活動に積極的に参加し、他の団体がどのような活動をしているのか、また、何が必要とされているのかを探ることにした。そこで、以前からお世話にもなっていた、緑の拠点である「多摩市立グリーンライブセンター」(以下 GLC)や、市民団体「一本杉公園みどりの会」の活動に実際に参加し連携を深めていった。

以下は、今年度行った主なイベントの概要である

[ガーデンシティ多摩センターこどもまつり 2013 - 親子で竹馬づくり] …継続事業

一本杉公園みどりの会が多摩センターにある GLC を会場とし、竹細工（竹ポックリ・篠笛・竹馬）の作製を来館したお客様に楽しんでいただくイベントである。今年度からは一本杉公園みどりの会の方々と、我々梅澤ゼミが連携して準備段階から企画・運営を行った。竹水鉄砲の作製・竹水鉄砲を用いた射的と、自作したウッドクラフトの配布を新たに

行った。

[ミニ・ウッドクラフト講座]・・・新規事業

ひじり館夏祭り、諏訪名店街東北復興&サマーセールの中で、梅澤ゼミの出し物の一つとして今年度から新たに行ったイベントである。

5月のGLCこどもまつりで配布したウッドクラフトが思いのほか好評であったことから、活動の場を広げようと考え、梅澤ゼミの他プロジェクト（七輪PJ）と連携して活動の場を広げた。ミニ・ウッドクラフト講座では配布だけではなく、実際に来て頂いたお客様にも作製を楽しんで頂いた。客層は主に子ども（親子連れ）で、子ども達にも手作りの楽しさを伝えることを目的とした。

[多摩センターハロウィン in 2013 -グリーンライフプロジェクト]・・・継続事業

多摩センターで行われているハロウィンイベントの催しの中の一つとして行われている。昨年度は恵泉女学園の恵話会¹サークルが中心となって活動しており、今年度からは恵泉女学園 KEES²サークルと多摩大学梅澤ゼミの共同企画として活動した。企画内容は、お菓子の配布とハロウィンに関連したキーワードをベースにした遊びの提供である。今年度からは記念撮影コーナーを新たに設置した。活動場所は GLC。

[ウッドクラフト講座の運営]・・・新規事業

一昨年前は GLC 内で行われたウッドクラフト講座が行われていた。人気のある講座であったが、講師の高齢化により講座はやむなく中止となっていた。こどもまつりの際に我々がウッドクラフトの配布を行っていたところ、GLC 職員の方から「梅澤ゼミで講座を開いてみないか」というお話を頂き、講座を復活させた。しかし、我々には講師を出来るほどのウッドクラフトの知識や、クラフトのバリエーションも無かったため、一本杉公園みどりの会の方に講師をお願いし、今年度は講師の方のアシスタントとして参加した。ドングリを用いたクラフトの作製をお客様に楽しんでいただいた。

3. 活動成果

以上のように、地域の活動を知るために、今年度は多くのイベント・活動に参加した。「こどもまつり」や「ハロウィンイベント」は去年も参加していたが、去年はあくまでもお手伝いとしての参加であった。今年度からは、一本杉公園みどりの会や恵泉女学園大学（KEES・恵話会）との連携を深め、企画や準備、運営から参加することになった。そのため、本格的に活動に加わったのは、今年度が初めてである。

今年度の主な活動は以下の通りである。尚、活動名称の左に※があるものは、イベント

¹ 恵話会は、恵泉地域言語活動研究会の内の一つ。 恵泉お話を語る会。

² KEES は、恵泉地域言語活動研究会の内の一つ。恵泉英語教育研究会。

当日のものであり、それ以外は事前準備段階のものである。

(上半期)

4月	13日「みどりの会活動参加」 14日「竹の調達」 20日「旧加藤家にて、子供祭りで扱う竹の洗浄作業」 24日「こどもまつり三者合同会議」 26日「子供祭りで扱うウッドクラフトの材料集め」 27日「一本杉公園にて枝拾い」 28日「竹水鉄砲づくり」 29日「ウッドクラフトづくり（準備）」 30日「子供祭り用のポスターづくり」
5月 ※	1日「GLC でミーティング」 2日「GLC にて恵泉女学園の方々話し合う」 3日～5日「ガーデンシティ多摩センターこどもまつり2013」 11日「みどりの会活動参加」
6月	2日「GLP 活動会議」 5日「名店街にて会議」 8日「みどりの会活動参加」 26日「GLC にてハロウィンイベント事前会議（第一回）」
7月 ※	5日「諏訪名店街東北復興&サマーセール/ミニ・ウッドクラフト講座事前準備」 6日「諏訪名店街東北復興&サマーセール/ミニ・ウッドクラフト講座当日」 17日「GLC にてハロウィンイベント事前会議（第二回）」
8月 ※	7日「GLC にてハロウィンイベント事前会議（第三回）」 24日「ひじり館こども夏祭り/ミニ・ウッドクラフト講座事前準備」 25日「ひじり館こども夏祭り/ミニ・ウッドクラフト講座当日」

(下半期)

9月	11日「GLC にてハロウィンイベント事前会議（第四回）」 27日「GLC にてハロウィンイベント事前会議（第五回）」
10月 ※	26日「ハロウィンイベント事前準備」 27日「ハロウィン in 2013 -グリーンライブセンタープロジェクト-当日」
11月 ※	8日「ウッドクラフト講座事前打合せ」 16日「ウッドクラフト講座事前準備」 17日「ウッドクラフト講座当日」

4. 今年度の振り返り

昨年度の最も大きな課題は「我々の活動が地域の方々の交流に至らなかった」という内容であった。

その反省点を踏まえ今年度は、今まで以上に市民の方々と近いところに関わろうと考え、そのためにも“地域の活動を知る”事をテーマとして掲げたが、実際に地域のイベントや活動に参加することで、そのテーマを達成する事は出来た。それにより、PJの目的である「人と人とを結びつける仕組みづくり」と「幅広い世代の方に緑の大切さを伝える」ための第一歩として大きな成果となった。

GLCや一本杉公園みどりの会、恵泉女学園（KEES・恵話会）など様々な団体と連携し交流を深めていく事で、今後の我々の活動を確かなものとした。

5. イベント毎の成果・結果

イベント毎の成果としては、以下のものである。

・こども祭り

昨年、一本杉公園みどりの会の方々が行っていたイベント内容（竹細工）の他に、我々の新たな取り組みである自家製のウッドクラフトの配布、竹水鉄砲を行い、お客様から好評を頂いた。その活動により、GLCの職員の方から、「講座を行ってみたいか」という要請を頂いた。

・ミニ・ウッドクラフト講座

講座の目的を「子供達に手作りの楽しさを伝える」としたが、実際に多くのお客様に参加して頂き、楽しんで頂く事が出来た。また、外部の方からも高い評価を頂き、今後の活動に繋がるイベントとなった。

・ハロウィンイベント

ハロウィンイベントのゴールを「来ていただいた方々に楽しんでもらう、良い思い出と思ってもらえるようにする。集客人数を、前年度の2,000人から今年度は2,500人を目指す。来場者及びスタッフが怪我（事故）無く終えること」としたが、来場したお客様からは多くの笑顔が見られ、集客人数も、用意した2,000個のお菓子は全て配布し、約3,000人以上のお客様に来館して頂く事に成功した。また、来場者及びスタッフも怪我無く終えることが出来、設定していたゴールを達成することが出来た。

・ウッドクラフト講座

講座を行う目的の一つとして、「若い世代へと技術を継承していく」ことがあった。そのため、今回の講座では来て下さったお客様に、こうした自然と触れ合う場を設けられた事が何よりの収穫であった。ウッドクラフト講座は、ゆくゆくは我々ゼミ生が自分たちだけ

で講座を企画・運営することを目指して始めたものである。その事から、今回は講座を通じてお客様だけではなく、我々ゼミ生にとっても講座を楽しみつつ様々なことを吸収することが出来た。

6. 外部評価

以下は、一緒に活動した方々から頂いた評価である。

(ア) こどもまつりに対する評価…一本杉公園みどりの会の皆様

- ・手作りのウッドクラフトを配布したのは出色だった。ただ数が多かったこともあり、若干作りが甘かった。
- ・皆笑顔で、子供達を目線で話していて良かった。今後はまた新しいアイデアを期待します。
- ・日を重ねていく毎によりスムーズに進行したと思います。作業分担がみどりの会と多摩大学で別れていたが、次回はもっと混合した分担がお互いに望まれます。
- ・こういったイベントの場合は事前準備が不可欠だが、なかなか腰が重かったため、やり方を検討しましょう。
- ・皆さん積極的かつ献身的でした。特に、リーダーの方はよくやっていました。

(イ) ミニ・ウッドクラフト講座に対する評価①…ひじり館事務担当様

- ・ご家族を含め120名余の子供たちが参加してくれ盛況でした。また、同時にひじり館内スタンプラリーを行っていただきましたが、ウッドクラフト教室に参加した子供たちがスタンプラリーに参加、さらにスタンプラリーのポイントで行われている他の催し物に興味を持ってそちらにも参加してくれるという流れができました。ウッドクラフト、スタンプラリー、他の催しが有機的に結びつき、相乗効果をあげる結果となりました。皆さんの柔軟な構想力、企画力に感心するとともに、感謝申し上げる次第です。今後とも地域の絆をさらに強めるために多摩大学殿と御一緒に活動する機会を増やしていければと願っております。

(ウ) ミニ・ウッドクラフト講座に対する評価②…NPO 法人多摩まちづくり専門家様

- ・ウッドクラフトということで、子どもたちにも手作りの楽しさを伝えるよい企画だと思いました。木や木の実など、素材は多摩ニュータウンには沢山ありますから、今後は公園などの手入れで出た剪定枝などの利活用も考えて、地域に密着した活動を期待しています。

(エ) ハロウィンイベントに対する評価①…GLC事務員の方

- ・企画に対して積極的に意見をだしていただきました。様々なことを想定した意見でした。
- ・シフトがとても細かく、緊急事態に対応が出来なかったのも、一人1カ所の担当にした

方が良いかと思いました。

- ・打ち合わせの時刻が毎回17時過ぎで暗いため、現場を見ることがなかったので、明るい時刻に数回確認が出来ると良かったのかもしれない。

(オ) ハロウィンイベントに対する評価②…GLC事務局長様

- ・2013年度多摩センターハロウィンイベントに多摩市立グリーンライブセンターとして参加し、グリーンライブセンタースタッフ、恵泉女学園大学学生と企画段階から関与し、具体的な活動内容を提案しながら、全体の計画書の作成を行ったことは大変よく評価できます。
- ・梅澤ゼミの皆さんは朝の準備から、終了後の片付けまで、主体的に活動していました。
- ・列の整理・来訪者誘導など自分で考えながら、もう少し積極的に対応してもよいと思います。判断に迷う場合は、GLCスタッフに相談してもよいでしょう。判断に迷ったことは、事前に打ち合わせをしておくべき項目だったと思いますので、来年の計画書に反映できるとよいと思います。

(カ) ウッドクラフト講座に対する評価…GLC事務局長様

- ・ドングリ工作技術を自分たちのものとしていただくことが重要かと思っておりますので、その方法の検討と実践をお願いします。そして、必要に応じて、グリーンライブセンターでの講座や一本杉公園みどりの会のイベントなどでのサポートをお願いします。

7. 今後の課題

今年度のテーマが“地域の活動を知る”という事だったため、若干受身の姿勢になってしまった。来年度は今年度の経験を活かし、ウッドクラフト講座等は当事者としての責任感を今まで以上に持ち、イベントをより良いものにしていく。

そのため、来年度は今年度以上の自主的な取り組みを行う必要がある。活動の幅を広げていくことも視野に入れるが、来年度はまず今年度の活動を継続し、自分たちの活動を“地域の方に広く認知して頂く”ことが重要である。そのため、来年度は「継続性」と「自主性」をテーマにし、自分たちの活動を確かなものにしていく。

8. 謝辞

本プロジェクトは、多摩市グリーンボランティア連絡会事務局長様ならびに、様々なイベントでご指導して下さった一本杉公園みどりの会のメンバーの皆様にご世話になっております。また、我々の活動に対し様々な助言をして下さった永山公民館運営・事業担当者様、多摩市立グリーンライブセンター職員の皆様、講座を開催するための機会を下さった諏訪名店街とひじり館の皆様、共にイベント運営・企画をして頂いた恵泉女学園KEESの皆様を始め、多くの方々に心より感謝申し上げます。